

ガイドボランティア活動記録(平成22年)

山本昌生

当園では平成13年3月24日から大温室などの温室植物を中心としたガイドボランティアを導入し、現在(平成22年12月現在)75名が活動中である。前号(第31号)に続いて、その後の活動や進展について報告する。

導入の経緯については平成13年度栽培記録(第23号)に記している。

ガイド活動は定期ガイドとしてペゴニア温室、大温室などの温室と屋外の花の進化園、ロックガーデンを毎週土曜日と日曜日、イベント時の祝日に実施し、季節に応じてサクラやバラ、ハナショウブ、アジサイなどを案内している。このほかに申込ガイドとして学校の自然体験学習や公民館、老人会、観光ツアー会社などからの申込ガイドに対応した(表1)。特に今年は、小学校低学年からの申込が多く、多い日は150人の小学3年生をボランティア9人で案内した。案内コースの設定や担当割り振りなどを事前に行い多人数の案内に対応することができた。

また、8・9月と12月に開催した夜間開園では夜の植物を案内した。特に8・9月にはサガリバナ、オオオニバス、ゲッカビジン、ヤコウボクなど夜に開花(香る)する植物などをガイドした。

園内の見頃の植物を案内する「季節の花さんぽ」は毎月第2火曜日と第4土曜日の月2回実施した(表2)。特別企画展「モミジの魅力展」関連行事「モミジと紅葉観察会」に協力し、紅葉の時期に園内を2回案内した。

組織作りと自主運営について

平成19年度に発足したガイドボランティアの会は、平成20年度から例会前と後のリーダーズ会議や例会時の班会議でガイド方法や研修会などを企画し実施していたが、平成22年4月から、簡素化のため例会2週間前の会議のみとした。4月の例会を総会とし、新役員の選定や規約改正、事業報告、会計報告があり、新年度の事業計画、予算が承認された。班編制については、班ごとで企画を立てたり、興味のある人が専門的に活動したりなどのメリットもあったが、メンバーが固まり、交流しにくいという意見もあり、一旦班を廃止とし、リーダーズの計

画を実施担当者が中心に行い、その都度メンバーを募集する事とした。

当番の割当について

平成20年度から当番表の記入を、活動月の前月下旬を締め切りとして希望の場所を記入するように簡素化した。その場合、ガイド場所が特定の場所に偏る懸念もあるため、苦手な場所も最低1回はガイドをするように当番記入表を変更した。また、例年お盆と年末年始のガイド当番が非常に少なくなり、責任を感じて無理に参加する人もいることから、8月13～15日と12月25日～1月5日の間に土日の活動日が当たる場合は、ガイド活動を中止する事とした(平成22年12月の例会にて)。

例会と研修について

偶数月にボランティア活動の報告・協議及び研修として植物の学習を行う例会を午前10時から12時まで6回開催した。4月の例会は、前述したとおり総会とし、6月からは植物に関するビデオを約30分間鑑賞し、世界の植物に関する知見を広めた。また、8月から植物交換会(植物のみの市)として会員が自宅の植物を持ち寄り、希望の人は持ち帰ることで、新しい植物の栽培を経験し、栽培方法など情報交換を行うようにした。プライダルベール、オリズルラン、アジアンタム、キルタンサスなどが持ち込まれた。

12月の例会は、忘年会を兼ねた交流会とし、まず、石田園長の講演を聞いた後、お弁当を食べながらビンゴゲームや植物のオークションを開催した。

例会時以外の研修として、3月にワタ、5月にバラ、6月にハナショウブ、10月にメープルシロップに関する研修を行い、6月と10月に園内の温室で収穫したコーヒー豆を使い、実際に焙煎を行って試飲した。(写真1、表3)。

園外の研修は、ボランティア同士の親睦を兼ねて、5月に岡山県倉敷市にある倉敷市自然史博物館と重井薬用植物園を訪ねた。自然史博物館では、館内の植物コーナーについて狩山学芸員に詳しい解説を受けた。薬用植物園では、アサツキなどの薬用植物だけでなく、岡山県の自生植物や希少植物について片岡園長と古屋野前園長から解説を受けた。野生植物を観察する園外研修は、会としての活動ではなく、同好会的な位置づけで、世話役数人が企画し、情報を掲示して参加者を募った。9月に安芸太田町の龍



写真 1. コーヒー焙煎研修



写真 2. 倉敷市自然史博物館



写真 3. 重井薬用植物園



写真 4. 秋のグリーンフェアのボランティアコーナー

表 1. 定期ガイド・申込ガイド実績表（平成 21 年度・平成 22 年）

年/月	定期ガイド*1										申込ガイド*2		合計	
	温室				屋外				小計	季節の花さんぽ	計	件数		人数
	日数(日)	ベゴニア温室	大温室*3	フクシア温室	花の進化園	ロックガーデン	その他*4							
平成 21 年 4～12 月小計*	81	2,615	4,681	2,992	2,122	1,514	1,124	15,048	358	15,406	17	541	15,947	
平成 22 年 1 月	8	195	284	196	113	116	5	909	22	931	0	0	931	
2 月	8	397	477	320	254	283	0	1,731	34	1,765	1	28	1,793	
3 月	8	262	408	284	247	221	99	1,521	32	1,553	2	145	1,698	
平成 21 年度合計	105	3,469	5,850	3,792	2,736	2,134	1,228	19,209	446	19,655	20	714	20,369	
平成 22 年 4 月	9	376	618	347	381	218	54	1,994	27	2,021	2	90	2,111	
5 月	14	645	898	375	413	519	30	2,880	43	2,923	3	125	3,048	
6 月	8	176	433	232	151	160	285	1,437	31	1,468	0	0	1,468	
7 月	9	314	366	203	119	111	20	1,133	13	1,146	2	56	1,202	
8 月	9	306	395	217	135	153	0	1,206	9	1,215	2	72	1,287	
9 月	8	201	249	174	112	98	0	834	30	864	2	52	916	
10 月	16	277	524	297	264	200	188	1,750	29	1,779	3	176	1,955	
11 月	9	240	418	333	273	81	55	1,400	40	1,440	3	305	1,745	
12 月	9	138	397	177	115	32	12	871	10	881	0	0	881	
平成 22 年合計	115	3,527	5,467	3,155	2,577	2,192	748	17,666	320	17,986	20	1,049	19,035	

*平成 21 年の 4～12 月の詳細は前号（栽培記録第 31 号）に記したので省略した。

*1 定期ガイドは土・日の昼間と祝日・夜間開園に実施したガイドとグリーンフェアの平日ガイド（10 月 4 日～8 日（5 日間 9 件 82 人））も含めた。

*2 申込ガイドは団体から申込みがあったガイド（10 月の近隣への出前ガイドを含む）。

*3 大温室は熱帯スイレン温室を、フクシア温室はサボテン温室を含む。

*4 その他は、サクラ（桜観賞会（8 日間 8 件 37 人）を含む）、バラ、アジサイなど特定の時期の植物案内とグリーンフェアの平日ガイドとした。

表 2. 季節の花さんぽ実績表（平成 22 年）

開催日	観察テーマ（見ごろの植物）	参加者数	担当者
1月23日（土）	熱帯の花と冬の草花	22	橋谷
2月9日（火）	早春草花とツバキ	24	若木
2月27日（土）	温室の植物（サボテン温室）と早春の草花	10	中島
3月9日（火）	セツブンソウと早春の草花	7	藤井
3月27日（土）	カンヒザクラと早春の花木	25	中野
4月13日（火）	サクラとツツジ	11	池下
4月24日（土）	ハンカチノキと山野草	16	竹内
5月11日（火）	初夏の樹木の花めぐり	25	竹内
5月22日（土）	花いっぱい春のバラ園めぐり	18	板東
6月8日（火）	イングリッシュガーデンと日本庭園	23	池下
6月26日（土）	アジサイと樹木の花めぐり	8	藤井
7月13日（火）	夏の山野草と樹木の花	5	野呂田
7月24日（土）	樹木の花とロックガーデン	8	坂本
8月28日（土）	アサガオの巨大カーテン	9	竹内
9月14日（火）	日本庭園周辺と展望台	15	中島
9月25日（土）	色づき始めた果実のいろいろ	15	北本
10月12日（火）	秋のバラとドングリ・シイの実	18	原田
10月23日（土）	色づき始めた樹木のいろいろ	23	金山
11月9日（火）	冬桜、カリンの実と落葉針葉樹	15	清崎
11月27日（土）	野菊と紅葉、黄葉、褐葉	25	坂本
12月14日（火）	温かい温室の花と果実	10	竹内
	合 計	332	

頭峽、11月に呉市の野呂山、12月に広島市の元宇品の植物を観察した。それぞれ15人前後の参加者があり、ツチトリモチなどの希少植物、園内の植物の野生での生育状態、植生などを観察した（写真2・3、表3）。情報提供として不定期にガイドボランティア通信を発行した（表3）。

自主活動について

5月4日（みどりの日）・5日（こどもの日）と10月の「秋のグリーンフェア」及び11月3日の植物公園開園記念日にガイドボランティアコーナーを設け、入園者に活動をアピールし、竹馬体験、どんぐりの試食、手作り苔玉販売などを行い好評だった（写真4）。特に11月3日には、来園者の方に園内にある無料で利用できる茶室の存在をアピールするために、初めてお茶会を催し、和菓子付きで先着100人に100円でお茶をふるまい、午前中で売り切れるほど来園者に好評だった。事前の材料の購入、茶室の清掃、障子の張り替え、当日の運営などを行った。

秋のグリーンフェア2010実行委員会に参加し、各種のイベントに企画段階から協力し、ガイドボランティアコーナーのほかに大温室内に設置されている地上約10mの管理道を参加者に案内するイベントにも協力した。また、平日の入園者増加対策とサービスのため、グリーンガイドツアーを開催し、園内の見どころを案内した。

親子植物体験教室や広島市内の小学校を対象に、ジュニア・プロジェクトと名付けた子供向けのネイチャーゲームプログラムや植物案内を実施し好評だった。

平成18年4月から毎週行っている屋外植物の開花調査は、有志により継続し、そのデータを例会のミーティングに活用している。入園者へのサービス向上のため平成19年12月から開始した入り口のインフォメーションコーナーは、見頃の花情報などのきめ細かい案内を行い、さらに植物ガイドを各温室などで実施していることを紹介している。

植物多様性保全への協力として、前述した植物調査や標本の作製、整理を定期的に行った。

ガーデニングの勉強のため、有志がハンギングバスケット作りなどをテーマに、専門家から講習を受けた。

新規ガイドの募集と養成

体調不良や家庭の事情により、退会する人がいるためと会の活動を充実させるために平成22年11月に広島市の広報誌「市民と市政」、地元の新聞等を通じて新規ガイドを募集した。24名の応募があり、平成23年4月からのガイドデビューを目指して、1月から3月まで、全5回の養成講座を開催することとしている。

表 3. 例会・研修会及びガイドボランティア通信一覧表

開催日	場 所	例会及び研修内容	参加者数
平成 21 年 4 月～ 12 月小計		(内容は広島市植物公園栽培記録第 31 号に掲載)	337
平成 22 年 2 月 20 日 (日)	植物公園講堂	例会：平成 22 年度の活動計画及び研修について (案の提示)、役員 の改選について、ガイド実績表の変更について、新年度登録証の配 付季節の花さんぽ計画案とマニュアル配付	36
平成 21 年度合計			373
平成 22 年 4 月 17 日 (土)	植物公園講堂	例会 (総会) 総会 (新役員の選出、会則の改正承認、平成 21 年度事業及び会計報告、 平成 22 年度活動計画及び予算の承認など) 8 期生の紹介、ジュニアプロジェクトについて	48
5 月 8 日 (土)	植物公園バラ園	バラ研修 「開花期のバラについて学習」 講師：栽培・展示課 浜谷修一 8 期生の研修を兼ね、先輩ボランティアも学習した。	30
5 月 21 日 (金)	倉敷市	園外研修：倉敷市自然史博物館と重井薬用植物園 自然史博物館では狩山学芸員による 3 階の「植物の世界」解説、薬用 植物園では片岡園長と古屋野前園長による薬用植物や希少植物などの 解説	25
6 月 5 日 (土)	植物公園 ハナショウブ園	ハナショウブ研修 「開花期のハナショウブについて講習」 講師：植物公園植物友の会 会員 三輪 昇	34
6 月 12 日 (土)	植物公園講堂ほか	コーヒー焙煎研修 指導：元花みどり公園職員 滝本氏 大温室で収穫したコーヒー豆を焙煎し、試飲した。	13
6 月 20 日 (日)	植物公園講堂	例会及び研修 親子植物体験教室への協力、植物のみの市 (植物交換会) 開催につ いてなど ビデオ 「西オーストラリアの植物」 ・ガイドボランティア通信 44 号「園外研修報告 倉敷市自然史博物 館と重井薬用植物園」(中野美満子) 「コーヒーの焙煎」(藤井ひとみ)	38
8 月 22 日 (日)	植物公園講堂	例会及び研修 秋のグリーンフェア及び開園記念日への参加についてなど ・ビデオ：すばらしき大自然 花と虫の関係	33
9 月 10 日 (金)	安芸太田町筒賀	園外研修：龍頭峡の植物観察 カツラ、ウスゲクロモジ、アキチヨウジ、キッコウハグマ、ミヤマウ ズラ、ハエドクソウ、ツルニンジン、ホツツジ、トチバニンジン、ク ロソヨゴ、ノブドウ、イワタバコ、オトコエシ、ミミカキタケ (冬虫 夏草) などの観察	16
10 月 16 日 (土)	植物公園講堂	例会及び研修 秋のグリーンフェア参加報告、開園記念日のイベント計画 (お茶会) について検討、メープルシロップの試飲など ・ビデオ：竜血樹について ・ガイドボランティア通信 第 45 号「園外研修 龍頭峡の植物」(野 呂田恵子)	33
11 月 12 日 (金)	呉市	園外研修：野呂山の植物観察 カナビキソウ、カナクギノキ、クマヤナギ、ハイノキ、カゴノキ、オ オフユノハナワラビなど	14
11 月 22 日 (月)	植物公園講堂ほか	コーヒー焙煎研修 6 月 12 日の研修を元に大温室で収穫したコーヒー豆を焙煎し、試飲 した。	6
12 月 3 日 (金)	広島市南区	園外研修：元宇品の植物観察 ツチトリモチ、エノキ、ムクノキ、シロタモ、クスノキ、ゲッケイジュ、 キツタ、タブ、ヤブニッケイ、マサキ、アベマキ、クロキ、イズセン リョウなどの観察	12
12 月 11 日 (土)	植物公園講堂	例会及び研修 ・開園記念日と園外観察会報告など、継続確認票用紙配付 ・講演「日本のエビネ=その成り立ちを推理する」 石田園長 ・懇親会・交流会 (忘年会を兼ねる)、植物のオークションなど	43
平成 22 年度 (4 月～ 12 月) 小計			345
平成 22 年 (1～ 12 月) の合計			381

今後の計画及び課題

・ガイドボランティアの会が 100 人規模となったため、さらに植物公園との連携を密にし、お互いの協力体制をとりながら活動を進めていき、運営については他園の情報も収集し参考とする。

・新しいガイドボランティアの中には活動開始から

日が浅いため、活動ルールの不徹底や他のボラン
ティアとなじみにくい人もいるのではという意見が
あるため、研修や懇親の機会を充実し、活動への意
欲やマナーを向上してもらうことが必要と思われる。